

ら念願するものであります。

昭和五十九年三月

柳谷村誌 目次

たになる 九

第二節 中津山塊と四国カルスト準平原 二

第五章 柳谷地塊(自然)のちから 六

第一節 岩石と土壌 六

土壌の生成 土壌の分類 土壌の

分布 土壌の生産力可能性区分

岩石の概要

第二節 河川・谷沢 三

谷川系統の概要 谷川の断面

第三節 気象現象 元

複雑多様な気象現象 日照―気温

風―気圧―台風 雲―雨―雪 天

気予兆へのわがい

第四節 「ひろば」と「みち」 元

村政府―ひろば 情報系―みち

第六章 地肌のちから 三

第一節 やなだにびとの文化化活動以前

に見せていた地肌色―夏緑落

口 絵

序に代えて あすへのことづけ

柳谷村長 近澤 房男

村誌の発刊にあたって

柳谷村議会議長 松本 正男

題字揮毫

近澤 房男

第一編 自然

第一章 黒川溪の歌碑が象徴する柳谷の

自然 三

第二章 いのちの讃歌 四

第三章 やなだにの自然の生い立ち 六

第四章 大いなる柳谷地塊 九

第一節 盤体が刻まれて彫りものすが

目次

(広)葉樹林の肌色……………三

植物の群落 植物・動物共生の生態

第二節 やなだにびとの文化化活動開始

以後の地肌色の移り変り―焼畑

を粧う地肌色……………四

甲番地域の焼畑づくり 乙番地

域へひろがる 拡がった焼畑はミツ

マタの花で黄色く彩られる 黄色い

ミツマタ畑蒼い林地に変わる 蒼色の

林相が醸す森林生態

第三節 県立自然公園(四国カルストを主

軸とする)の草原・溪谷……………四

第四節 柳谷にすむ鳥獣……………四

第二編 歴史

第一章 村の歴史への試み……………五

第二章 柳谷人の足跡の区分……………五

第三章 農耕以前不定任期(移動的採収

生活期)……………六

第四章 農耕的自給生活期……………六

第一節 新しい生活様式への転換……………六

植物栽培の発明 農耕生活のあけぼ

の 選地―定住―村の夜明け

第二節 村びらき―村の歴史のおこり―

黒川文化のめげえ……………七

柳谷のあけぼの 村社の建立 官

道の変遷 民間山道の開通

第三節 定住……………七

みち 永い空白 土地えらび

第四節 焼畑山村社会の形成……………七

自耕自給 山村形成 焼畑景観

第五節 分権的封建社会の崩壊―河野

氏・大野氏の支配は終る……………七

河野氏の伊予国支配 大野氏の小田

・久万支配 柳谷地域の番城 土

佐一条氏の久万侵入を撃退する 笹

が峠の戦 主家の衰滅により卒々の

身に

第五章 農本的封建社会期……………六

第一節 新しい社会構造の出現……………六

第二節 農本的封建社会の構造特質……………六

統一社会性 農本性 身分性

閉鎖性 防衛性

第三節 農本的封建社会の生活様式……………七

社会的役割 村役人 村庄屋

百姓代 組頭 村三役に統いて五

人組頭 惣百姓 高い貢租 畑

所村 担負能力財形意欲 凶作に

続く飢饉苦 厚生と信仰 住居

番所 医療 村びとの信仰

節儉・出精 抵抗

第六章 流通的自由社会期……………七

第一節 新しい社会の出現……………七

第二節 流通的自由社会の構造……………七

統一国家性 通産化性 平等性

開放性 連帯性

第三節 流通的自由社会期の生活様式……………七

(一) 前期 通産化(工業化)社会期 明治四

(一八七二)年―昭和二〇(一九四五)年ま

で……………七

半封建的社会 土地税制 農山漁

村民の低所得 近代化施策 予土

横断道路……………七

(二) 久万・梶原線の整備……………八

国道昇格 西谷住還 九尺道路開

設計画 馬道計画 柳橋改修

馬道開通 県道認定 運動費訴訟

問題 改修事業容易ならず オリ

オへ着工 落出基点より改修始まる

もめる 匠教土木事業適用 就労者組合

西谷の決議 相田裁定案 県庁

で村会 相田裁定再確認 用地交

渉 車道開通 国道昇格成る

(三) 後期 福祉社会化期 昭和二〇年代―

五〇年代へ……………八

混乱から安定へ(二〇年代) 生活基

盤中心の社会づくり(三〇年代) 経
済開発と社会開発(四〇年代) 安定
した福祉社会へ(五〇年代)

第三編 政治

第一章 「政治編」の位置づけ……………二七

第二章 わが村の政治の概観……………二八

第三章 庄屋制度期 慶長二二(一五九七年)
〜明治三二(一八七〇)年……………二九

第一節 庄屋制度期の政治特質……………三〇

農本的封建社会 同一の通信連絡系

統 責任遂行の協和体制 上意下

達 下意上申 畑所村 備荒民

積策策―久万凶荒予備組合の母胎

久万山凶荒予備組合のあゆみ 庄屋

期の政道ここにみる

第四章 戸長制度期 明治四二(一八七二)
年〜明治二二(一八八九年)……………三四

第一節 戸長制度期における愛媛県行政
区画の変遷……………三五

第二節 明治五年 大小区制下の戸数・
石高……………三五

第三節 戸長制度期における柳谷村区域
の行政組織……………三五

戸長制度の役割 戸長の任務 戸

長行政費の措置 郡区町村編制法の

制定公布 戸長制度期における重点

施策 戸長制度期を代表する重点施

策としての地租改正

第五章 村長制度期 明治二二(一八八九)
年〜昭和五八(一九八三年)……………三六

第一節 村長制度期の政治特質……………三六

第二節 「町村制」施行期の行政展開……………三七

第三節 予土国境争論……………三七

国境争論の起り 明治二〇年代

明治三〇年代 未定地下戻申請

行政訴訟参加 弁護士雇入 大正

時代

第四節 「地方自治法」施行期の行政展
開……………三七

地方財政体系の確立 村政府活動の

外部環境の構造変化

第五節 野村・柳谷境界紛争……………三六

第四編 産業・経済・通信・運輸

第一章 柳谷の地肌とのかけ橋……………三九

第二章 つち……………三九

第一節 耕地……………三九

焼畑づくり 切替畑の運営 水田

造成(田掘り) 休場組耕地整理組合

の組織化 柳谷村農会 柳谷村信

用購買組合から柳谷村昭和信用組合ま

で 柳谷村農業会 柳谷村農業協

同組合そして久万農業協同組合柳谷支

所へ 農政の近代化 農地委員会

の創設 農業委員会の創設

第二節 林地……………三九

林業の村 造林の足どり 森林組

合の沿革

第三節 村有林造成事業の起り……………三九

発想と財源確保 土地確保 造林

事業着手 境界紛争 造林事業推

進 造林事業中断 官行造林契約

伐採収穫 再造林

第四節 草地……………三九

役畜期 畜産化期 大規模草地開

発畜産団地化期

第五節 外地……………三九

海外移住

第三章 みず……………四〇

第一節 飲用水……………四〇

第二節 灌漑用水……………四〇

第三節 排水事業……………四〇

集落排水施設 農業用水排水施設

谷川排水施設

第四節 養魚……………四〇

第五節 水力発電……………四〇

第四章 ひかり……………四〇

- 第一節 観光 三九
- 第二節 柳谷村商工会 三九
- 第三節 通信・運輸 三九
 - (一) 郵便局 三九
 - (二) 有線電気通信 三九
 - (三) 柳谷村防災行政用無線局 三九
 - (四) 道路 三九
 - (五) 運搬具 三九
 - 人力 人力を補助する運搬具 畜力(駄馬) 馬車 自転車 自動車 三九
 - 動車 ロープウェイ 三九

第五章 銭ぜに

- 第一節 「ぜに」が「くらし」を支配する 四三
- 第二節 ぜにの流れから見た村の生活の移り変わり 四三

- (一) 第一期 塩代期(文歩のころから銭厘のころまで) 庄屋のころから明治のはじめころまで) 四三
- (二) 第二期 頼母子期(二〇〇銭でやっと一円のころ) 明治中期から大正末期(ころまで) 四三

第五編 教育

- (一) 農村匡教期(一〇円札が流通の王座を占める期) 昭和はじめから終戦まで) 四一
- 負債整理 農家金融の近代化 経済更生計画とその実践 四一
- (二) 高度流通期(一万円札期) 昭和二〇年以降) 四一

第一章 学校教育

- 第一節 学制頒布以前の教育 四一
- 第二節 学制頒布以後の学校教育 四一

一 概説

- 学制頒布 教育令の公布 義務制の発足 大正期の小学校教育 昭和前期の教育 戦争下の国民学校 義務教育 四一

第三節 戦後の学校教育

- 一 戦後の教育再建 四七
- 二 新制中学校の発足 四七
- 三 定時制高等学校 四七
- 第四節 義務教育の充実発展 四七

- 一 教育課程のうつりかわり 四九
- 二 統合中学校の誕生 四九
- 三 新しい教育の試み・集合学習 四九
- 第五節 義務教育終了者の教育 四九
 - 一 農業補習学校 四九
 - 二 青年訓練所 四九
 - 三 青年学校 四九
- 第二章 社会教育 四九
 - 第一節 戦前の社会教育 四九
 - 一 青年団・女子青年団 四九
 - 二 国防婦人会 四九
 - 第二節 戦後の社会教育 四九
 - 一 概説 四九
 - 二〇年代の社会の動き 三〇年代の社会の動き 四〇年代の社会の動き 五〇年代の社会の動き 四九
 - 二 幼児教育 五五
 - 幼児教育のはじまり 幼児学級の設置 へき地保育所への切り替え 五五

幼稚園への切り替え 集合保育の実施

- 三 青年団活動 五九
- 青年団結成と活動 青年団と学習活動 人口過疎化と青年団 五九
- 四 婦人会活動 五九
- 婦人会の結成と婦人の自覚 婦人会と学習活動 人口過疎化と婦人会 公民館活動と婦人会 五九
- 五 壮年会活動 五九
- 壮年会の結成 壮年会の活動 PTA(愛護班)活動 五九
- PTAの先かけ PTAの発足 村PTA連合会の結成 PTAの学習活動 愛護班活動のはじまり 統合中学校とPTA活動 PTAの読書運動 人口過疎化とPTA 高齢者教育 五九
- 七 人口過疎と高齢化への変貌 老友会の結成 郡老人クラブ結成と学習活 五九

動 村の老人学習のはじまり ホ
 ームヘルパー設置と対象者の様子
 村の高齢者意識調査 高齢者学習の
 内容

八 社会体育 五六

青年団と体育活動 スポーツ大衆化
 の動き 村主催スポーツのはじまり
 体育の日と村民体育祭 スポーツの
 郡の動き 施設整備によるスポーツ
 活動の夜間化 地域公民館・団体等
 のスポーツ活動

九 公民館活動 五五

公民館の源流 公民館運動と村のホ
 かわり 青空公民館のスタート
 中央公民館の建設と活動 地域公民
 館の建設と活動

第三章 教育委員会 五五

第一節 教育委員会の発足 五五

第二節 公選制から任命制へ 五六

第三節 教育行政の歩み 五七

第六編 民俗・文化

第一章 衣食住のうつりかわり 五七

第一節 衣生活 五六

一 衣服 五六
 晴着 ふだん着 仕事着

二 履物 五三
 下駄 草履・草鞋 足袋 革靴
 ゴム靴

三 被りもの 五五
 手拭 帽子

四 風呂敷・袋物・雨具 五三
 風呂敷 袋物 雨具

第二節 食生活 五七

一 食物 五七
 食制 主食 副食物

二 炊事施設 五三
 台所 タキモン(薪)

三 調理・炊事用具・食器 五三

鍋・釜 茶沸し 汁杓子 桶類
 カゴ類 食器 箱膳 シタミ
 弁当入れ

第三節 住生活 五五

一 住居 五五

屋敷取り ドウヅキ チョウナハ
 ジメ 棟上祝い

二 家の屋根 五五

茅ぶき屋根 瓦屋根

三 家材料 五五

四 家の間取り 五五

五 家の中の設備 五五

燈火 風呂 暖冷房

第二章 通過儀礼 五五

第一節 産育 五三

帯祝い 出産

第二節 養育 五三

名付け 名付け親 宮参り 食
 べぞめ 初誕生 七五三

第三節 成人 五五

第四節 婚姻 五五

一 婚約 五五

通婚圏 結婚観 すみ酒 結納

二 結婚式 五三

祝言 嫁迎え 嫁入り行列 手
 引き嫁さん 三三九度の盃 ヒザ
 ナオン

第五節 厄年・年祝い 五五

厄年 年祝い

第六節 葬送 五五

一 死亡 五五

魂呼び マクライ 二人使い

二 葬儀 六一

不幸組 お悔み 穴掘り・道具作
 り 湯灌 入棺 葬儀 出棺
 葬列 埋葬 トキノメン 墓直
 し

三 仏事 六一

服喪 タンヤ シジュウク ア
 ラボン カンニチ 年忌

第三章 労働とならわし…………… 六六

第一節 人と人とのつながり…………… 六六

一 相互扶助…………… 六六

モヤイ イイ コウロク…………… 六六

二 講…………… 六七

(一) 崇敬講と代参…………… 六八

伊勢講 金毘羅講 秋葉講 石

鏡講 宮島講 子安講 久礼講

(二) 民間信仰的な講…………… 七〇

日待講 愛宕講 大師講 えび

す講

(三) 頼母子講…………… 七二

親頼母子 馬頼母子 屋根講

瓦講

三 年齢集団…………… 七三

子供組 若物組 夜這い 隠居

組

第二節 奉公…………… 七四

子守り奉公 あらしこ 弟子入り

でっち奉公

第四章 年中行事…………… 七六

第一節 正月行事…………… 七七

若水迎え 年始 正月礼 歳初

め お日待 七日正月 アワン

ボ 鬼の金剛 二十日正月

第二節 春から夏の行事…………… 八〇

節分 初午 桃の節句 春の彼

岸 社日 花まつり 春祭り

五月節句 オサンバイサン 齒固

め 夏祭り 半夏至 土用

七夕 お盆

第三節 秋から冬の行事…………… 八四

八朔祝い 月見 秋の彼岸 秋

祭り 亥の子 冬至 年の暮れ

第五章 芸能…………… 八七

第一節 民謡…………… 八七

一 仕事の唄…………… 八八

田植え唄 うすひき唄 茶摘み唄

木挽唄 馬子唄 子守り唄

二 祝い・祭りの唄…………… 八九

祝い唄 亥の子唄 胴搦唄

嫁入り唄

三 わらべ唄…………… 九〇

(一) 手毬唄…………… 九〇

てまりとてまり うけとった わ

しのおばさん 一匁のいい助さん

おしよしょ正月 正月とえ 一か

け二かけ 一れつ談判 一番はじ

めは

(二) お手玉唄…………… 九三

おじゃみ 日本の乃木さんが

(三) 羽子つき唄…………… 九三

一や二

(四) 鬼あそび唄…………… 九三

鬼ごと かごめかごめ 坊さん坊

さん 中の中の弘法大師

(五) 縄とび唄…………… 九四

大波小波 ゆうびんさん おはい

り

(六) 子取り遊び…………… 九四

子くれ子くれ

(七) 手合わせ遊び唄…………… 九四

夏も近づく

(八) 指遊び唄…………… 九四

いびつく 一が刺した

(九) ならめっこ遊び唄…………… 九五

だるまさん

(一〇) 関所遊び唄…………… 九五

通りゃんせ

(一一) 幼児の唄…………… 九五

ちょうち

四 踊り唄…………… 九五

(一) 盆踊り唄…………… 九五

(二) 盆踊り唄…………… 九六

(三) 名荷踊り唄…………… 九七

三ッ拍子 ひけは くりあげ

いよこ つまたたき ねずみのく

ぜつ 嫁入り せんす

(四) 花取り踊り唄…………… 九八

五 万歳小唄…………… 九八

目次

豊年踊り 才藏舞唄 宮島心中
義経千本桜 柱揃え お半長衛
なぞづくし

第二節 獅子舞い……………七六

本村祭獅子(松木) 小村獅子(小村)
西村獅子(西村)

第三節 踊り……………七九

一 盆踊り……………七九
二 名荷踊り……………七一
三 花取り踊り……………七三

第四節 万歳……………七四

一 立野万歳……………七四

第六章 伝承と俗信……………七五

第一節 伝説……………七五

一 自然伝説……………七六
井野早太の大杉 早虎神社の大杉
弾正が嶽 権現滝 赤滝 蛇が
石 イナキ石 八金の竜王様
竜の川 竜宮渕 湯の成 お大

一一一

師穴 お大師さんとムカデ……………七三
二 歴史伝説……………七三

トキドと逆さわらし モリモリダ
塩売りさん 稲葉弾正と兵衛の太夫
鉢窪の大蛇退治 大寂寺と頼政の母
久栖のはじまり 関奥の起り 本
村組の開祖 猪伏池ノ宮神社の由来
平家落人の行方木地師 ヤジロ
ウサン お百婆さん きゅうざい
六兵衛 かまところ

三 その他の伝説……………七五

山姥 山犬 エンコの恩がえし

第二節 俗信・俚諺……………七七

一 予兆……………七七
二 禁忌……………七九
三 呪術……………七九
付 俚諺……………八〇

第七章 方言……………七七

第一節 愛媛の方言と当地方の方言……………七七

第八章 ふるさとの文化財……………七二

第七編 生活安全

序 存在することへの不安、そして安

全への試み……………八五

第一章 人籍―戸数・人口……………八六

第二章 地籍……………八九

第一節 幕藩期 明治四(一八七二)年

廃藩置県まで……………八九

第二節 地券設定後 明治一五(一八八

二)年……………九〇

第三節 明治末期……………九四

第四節 大正末期……………九四

第五節 地籍調査実施直前……………九五

第六節 地籍調査実施後……………九六

第三章 天災……………九八

第四章 信仰……………一〇〇

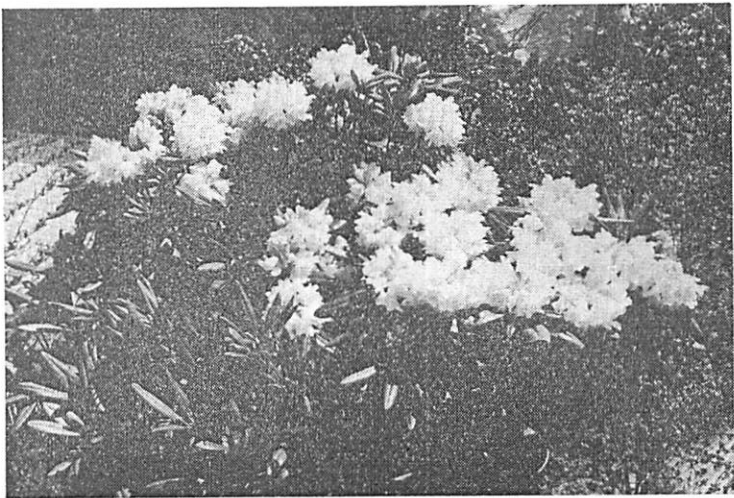
第一節 神社祠一覽……………一〇〇

第二節 寺院一覽……………一〇六

目次

第一節 国指定の文化財……………七三
第二節 愛媛県指定の文化財……………七三
第三節 村指定の文化財……………七三
一 天然記念物……………七三
二 無形文化財……………七三
第四節 その他の文化財……………七三
一 神社……………七三
二 寺……………七三
三 史蹟……………七四
四 常夜燈……………七四
五 墓碑……………七四
六 記念碑……………七四
七 地蔵……………七三
八 石造物……………七三
九 絵間……………七四
一〇 久主の野取図(中津窪田)……………七五
一一 旧西谷村絵図……………七六
一二 古文書……………七六
一三 天然記念物……………七八

第一編 自然



シヤクナゲ

目次

第三節 教会一覽	八六
第五章 医療	八元
第一節 わが村で開業した医師・歯科医師一覽	八元
第二節 わが村における公共医療施設一覽	八三
第六章 治安	八三
第一節 警察行政の概要	八三
第二節 消防行政の概要	八七
第三節 防災行政一般	八四
第四節 交通安全	八四
第五節 公害対策	八四
第七章 保険	八四
第八章 貯蓄	八四
柳谷村誌年表	八四
付表 旧番地及び字名表	卷末 1
編集後記	